
**藤久保地域拠点施設
第7回検討委員会資料
【参考事例：社会教育施設の使い方】**

令和3年1月
三芳町

参考事例①～図書館

【八王子市中央図書館】 手話による図書館利用案内DVD作成

目的	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障害者はコミュニケーションが難しいために施設職員に利用方法など聞くのをためらうことが多いため手話による利用案内動画をDVDで作成。
概要	<ul style="list-style-type: none"> 出演は図書館員と市民の方。本篇は通しで約35分で、様々な場面を説明。 市内の図書館全館でDVDを貸出しているほか、YouTubeとして視聴可能としている。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 全編手話で説明し、手話が分からない方向けに音声と字幕も付与。 聴覚障害のある市民の方に利用者の役で出演してもらい、市民との協働で作成。 NHK「手話ニュース845」や新聞で取り上げられている。



【東京都立多摩図書館】 特別支援学級での読み聞かせガイドブック作成

目的	<ul style="list-style-type: none"> どの子供も読書の喜びに会う機会を提供するために、特別支援学校及び特別支援学級での読書の取り組みを支援する読み聞かせのガイドブックを作成。
概要	<ul style="list-style-type: none"> 都立特別支援学校と連携事業として、出張おはなし会や図書館運営の支援を実施 おはなし会などの実践をもとに、読み聞かせの手法、読み聞かせに向く絵本の紹介、読み聞かせる際の留意点を紹介したガイドブックを作成 4,000部発行、都立特別支援学校、都内区市町村の特別支援学級を有する小中学校に配布
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 子供の障害（知的障害・肢体不自由、聴覚障害、視覚障害）に応じて絵本やお話を紹介



出所：文科省資料

参考事例② ～図書館

【大阪市立中央図書館】 書評漫才（SBR）グランプリの取組

目的	<ul style="list-style-type: none"> 「読書離れ」といわれる中高生に、読書に関心を持ってもらい、図書館に来館するきっかけを作るために「お笑いコンテスト」を図書館で開催
概要	<ul style="list-style-type: none"> お笑いコンテストに、本を紹介して競い合うビブリオバトルの要素加味した催しを企画し、「書評漫才（SBR）グランプリ」と名付けて実施。 審査員は、大阪府立上方演芸資料館学芸員、人気作家、地元洋菓子店の広報担当者、公務員漫才コンビ、市立高校校長など。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> お固いイメージの図書館で「漫才コンテスト」という意外性もあり、マスコミが好意的に取り上げてくれた。 ホームページやツイッターを積極的に活用 アンケート結果は概ね好評で、出場者、来場者ともに次回開催を希望するものが多かった



【春日市民図書館】

図書館をもっと魅力的なものにするためのワークショップ

目的	<ul style="list-style-type: none"> 図書館活動のサポーターグループの形成と組織化を図り、市民の意向をより反映した図書館運営を実現する。 図書館の運営に対する市民の関心を高める。
概要	<ul style="list-style-type: none"> 「市民図書館をもっと魅力的な場所とするためにどんなことができるか」をテーマとしたワークショップを実施し、その参加者を中心として事業企画サポーターを組織した 成果として閉館後の図書館を活用した「夜の図書館」や、「おとなの一日図書館員」等の市民参加型事業の実施につながった。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップを「図書館しゃべり場」と名付け、一般の市民だけでなく図書館職員や市職員なども参加して、自由な意見交換の場とした。



出所：文科省資料

参考事例③～児童館

【仙台市東四郎丸児童館】 チーム東中田っ子（ボランティア育成）

施設	<ul style="list-style-type: none"> 名称：仙台市東四郎丸児童館 設置主体：仙台市 運営主体：NPO法人FOR YOU にこにこの家
概要	<ul style="list-style-type: none"> チーム東中田っ子は、東中田地区の3つの小学校の小学生、中学生、高校生の子どものためのボランティアチーム。平成19年「子どものための児童館とNPOとの協働事業」を機に結成され、現在小学3年生から高校2年生までの20名で活動している。 大学の学園祭や児童館での活動報告会など、自分達の活動を広く知ってもらう機会を設けている。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢の仲間作りの場となっている。 普段関わりがあまりない大学生や福祉施設の方と交流を持つことができ、「人とのつながり」を強く感じられる。 自分達の企画したイベントを実現できた達成感や充実感が更なる意欲へと繋がっている。



【京都市梅津北児童館】 子育て支援の中心施設としての児童館

施設	<ul style="list-style-type: none"> 名称：京都市梅津北児童館 設置主体：京都市 運営主体：公財)京都市児童館学童連盟
概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方に児童館について理解を深めてもらえるよう、児童福祉以外の部局とも連携して、有料ごみ袋の配布や納涼体験など幅広い事業を展開している。 児童館内で放課後児童クラブを実施している。児童館に来館する子どもと放課後児童クラブに在籍する子どもが交流できる。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 児童館の利用者層である乳幼児親子が児童館の場所を知る機会となっている。 地域住民を積極的に巻き込むプログラムにより、地域における児童館の認知度の向上に寄与。 児童館に来館する子どもと放課後児童クラブに在籍する子どもの交流促進。



出所：文科省資料

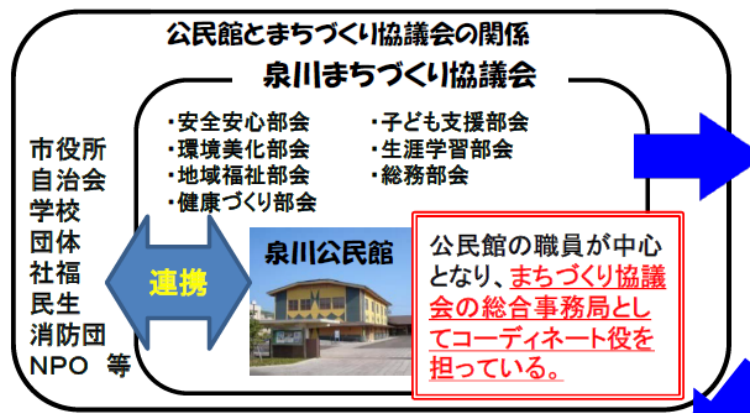
参考事例④～公民館

【新居浜市泉川公民館】 泉川まちづくり協議会

概要	<ul style="list-style-type: none"> 補助金減少、地域の環境悪化、社会教育関係団体の高齢化等により、地域の組織の再構築が必要になったことを契機に、全戸対象アンケート調査を実施し、その結果を分析し、住民による熟議により地域課題を抽出した。 それを踏まえ、地域自ら課題を解決する「地域主導型」のまちづくりを目指し泉川まちづくり協議会を設立 公民館の職員が中心となり、まちづくり協議会の総合事務局としてコーディネート役を担っている。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 「自分達の地域は自分達の力で」を皆が口にするようになった。

【延岡市エンクロス】 市民活動を開く取組

概要	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧専用の書籍設置・閲覧スペースと市民活動スペースの複合施設。 市民活動に対して無料の貸館サービスを提供しているが、「各団体の活動に毎回、最低一名の新規参加者を入れること」をルールとしている。 市民活動の広報、メンバー構成、取り組み内容について指定管理者が積極的に関与している。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 年間120万人の利用者数を達成。 年間約100件のイベント。半数は市民活動のイベント化。半数は指定管理者の自主企画。 多様な価値観が認められ、自己表現ができ、風通しがよく、女性や子どもに優しいまちにつながる。



出所：文科省資料

